

## 看護学生のカンファレンス演習での学び

—演習のふりかえりの記録の分析—

齋藤 貴子<sup>1)</sup> 磯崎富美子<sup>2)</sup>

### The Acquaintance of Conference Practice for Nursing Students.

Saito Takako Tomiko Isozaki

#### 要旨

A短期大学では2年次に成人看護学の授業の中で、カンファレンス演習を行っている。カンファレンスに関する文献を概観したところ、カンファレンスを演習として取り扱った文献は見あたらず、カンファレンス演習での学生の学びについて調査した。演習終了後に記入してもらっているふりかえり用紙を用いてデータ収集を行った。研究への同意が得られた74人分のふりかえりをデータとした。「カンファレンスについて学生が何を学んだのか」をリサーチクエスチョン演習での学生の学びについて調査した。演習終了後に記入してもらっているふりかえり用紙を用いてデータ収集を行った。研究への同意が得られた74人分のふりかえりをデータとした。「カンファレンスについて学生が何を学んだのか」を研究の問いとし内容に基づき分類した。その後カテゴリー化した。結果、【カンファレンスの効果を演習により体得】、【テーマに則した進行のための役割・能力】など10の学びが確認され、カンファレンス演習は①カンファレンス技能習得のきっかけとなる。②実習カンファレンスのシミュレーションとして効果が期待できる。③カンファレンスに参加する姿勢と態度を知ることができる。④参加メンバーの意見が新たな気づきと自己の成長のきっかけとなりうる。以上4つの示唆が得られた。

キーワード：カンファレンス 演習 看護学生

Conference, Practice, Nursing Students.

The purpose of this study was to interpret acquainting nursing students through conference practice. Some junior college nursing students had conference practice in their their an adult nursing class. A research question for this study was what nursing students acquired through conference practice. Students wrote a free composition after the practice. It was analyzed using techniques like content analysis, and ultimate categorizing. 10 studies showed that the study of conference practice, which included “learning effects through practice”, and “role and ability training for running conference , to be the goal”. Practice was suggested as a trigger to master conference acquirements and to simulate a clinical postconference, realization with manner and attitude confidence, to trigger self-development.

#### 1. はじめに

看護学実習においてカンファレンスは多くの看護学教員が頻繁に活用している授業形態である。また看護学実習におけるカンファレンスの意義もコンセンサスを得ている。臨地の看護の場面においても、問題解決方法や情報の共有のために日常的に見かけるコミュニケーション方法である。カ

ンファレンスについては、その運営、学生の成長、教授方法等多くの看護研究が既に発表されている<sup>1) 2)</sup>。

A短期大学成人看護学では、2年次に周手術期にある人の看護問題の解決過程を学習するために、事例を用いて看護過程を展開し、既習の成人看護学の講義のまとめであるとともに、実習の準備と

している。看護過程を展開していく中で、演習を取り入れ術前指導や術後の排痰の援助を演習している。その一連の演習の中に、カンファレンス演習を取り入れている。なぜならば学生たちは基礎看護学実習から実習カンファレンスに接しておらず、十分なプレゼンテーション技術がないままに領域別実習での実習カンファレンスに参加しているため、効果的なカンファレンスが成立するためには、臨床指導者や教員のかなりの介入を必要としている現状だからである。カンファレンス演習の目的を学生が意義を理解し、成人看護学実習におけるカンファレンスを効果的にするための準備と考えている。演習の利点として、学生が実際患者のところに行く前であるため、時間や資源の使用を効果的にする<sup>3)</sup>ことがあげられる。

本研究のリサーチクエスチョンを「カンファレンスについて学生が何を演習で学んだのか」とした。目的はカンファレンス演習での学生の学びを明らかにし、カンファレンスの演習の効果を示唆することとした。その理由は文献を概観したところ、カンファレンスについてのいくつかの研究発表が存在するが、カンファレンスを演習として取り扱っている研究発表は見られないからである。しかし実習でのカンファレンスによって「自己の考えを口頭で述べる能力」「クライアントに関する情報を他者と共有すること」「実践に関するディスカッションにおいて他者をリードすること」「グループの中で自己の考えを述べること」「学習効果を披露すること」といった5つのカンファレンスの技能を修得することが期待される<sup>4)</sup>。しかし初学者である学生は効果的なカンファレンスを運営することが困難であり、上記の5つの技能を経験的に実習から修得するのは難しいことではないかと考えた。カンファレンス演習での学びが明らかになり、学習効果が示唆されることで、実習カンファレンスが効果的になることを期待し本研究の目的を設定した。

## 2. 研究方法

- 1) 対象：カンファレンス演習に参加したA短期大学看護学科 2年生76名
- 2) データ収集期日：2005年2月21日
- 3) データ収集方法

カンファレンス演習の実際：カンファレンスについてその定義、カンファレンスへ参加するにあたっての心構えについての講義を行

い、その後30分から45分の演習を行う。カンファレンス演習のテーマは、あらかじめ設定したいくつかのテーマから学生が選び、その後実際にカンファレンスを行う。この演習では教員はファシリテーターとして関わり、積極的な介入を行わない。演習終了後学生はふりかえり用紙を記入する。

ふりかえり用紙：カンファレンス演習終了後、学生は「カンファレンスを実施したことについて意見や感想・学びを書いて下さい」という質問項目を設定した自由記述式記名式のふりかえり用紙を記入した。その後研究への参加について説明し、研究への参加の同意が得られた学生のふりかえりをデータとした。

## 4) 分析方法

意味内容の類似性をもとに内容の分析を行った。

- (1) データから会話調の文章は意味と内容を操作しないよう注意して口語体の文章に修正した(データ変換)。
- (2) リサーチクエスチョン「カンファレンスについて学生が何を演習で学んだのか」に該当する部分を抜き出した。
- (3) 分析が可能なように、リサーチクエスチョンに基づいた一つの内容を含んだ文章を一記録単位とした(分析単位)。
- (4) 個々の記録単位を意味や内容の同一性、相違性に基づき分類した。その後カテゴリー化した。
- (5) 共同研究者が分析を同じ手法で同時に行った。分析中は共同研究者と分析過程についての一切のコミュニケーションはもたず、コミュニケーションによって生じる分析結果へのバイアスを避けた。分析結果を筆者の分析と比較し、再現可能性があるか検討した。

## 5) 倫理的配慮

研究への参加にあたって、対象者に個人情報保護を保護すること、研究以外にはデータを使用しないこと、成績には影響しないことを説明した。対象者の自由意志を尊重し、研究へ同意しない場合はデータ収集当日でも後日でも不参加の意思を口頭または文書で伝えるよう依頼した。2名より口頭で研究への不参加の意思が確認された。これより74名の研究への参加の同意が得られた。

### 3. 結果

76名の対象者のうち研究への同意が得られた74名分のデータが得られた（回収率97.4%）。データから148の記録単位が抽出された。そのなかで意味・内容を分析している段階で、記録単位に含まれる内容が感想と判断される記録単位があり、分析から除外したため、全てを分類できなかった。最終的に分類しカテゴリーに属する記録単位数は最終的に126となった。研究への同意が得られた74名分のデータから148の記録単位が抽出された。そのなかで意味が同一の重複している記録単位があり全てを分類できなかった。そのため分類しカテゴリーに属する記録単位数は最終的に126となった。その内容は10のカテゴリーに分析できた（表1）。

表1 カンファレンス演習の学びにおける記録単位数とカテゴリー名

カテゴリー名	単位数	(%)
カンファレンスの効果を演習により体得	27	21.4
テーマに則した進行のための役割・能力	20	15.9
カンファレンスへの参加姿勢	20	15.9
カンファレンスの意味の理解	15	11.9
他者の新鮮な意見への驚き	13	10.3
共有すること	8	6.3
自分の考えを伝えること	8	6.3
カンファレンスによる自己の新たな気づき	7	5.6
カンファレンス前の発言のための準備	4	3.2
他者の意見に刺激を受けさらに深まる	4	3.2
	126	100

以下〈 〉は抽出された記録単位を表し、【 】はカテゴリーを示す。

#### 1) 【カンファレンスの効果を演習により体得】

〈一つのことをみんなで話し合い、意見を出し合うことで、1人では解決できなかったことができ、もっと視野を広く持てると思った〉〈他者の意見を聞くことで自分の考えていたことと全く違う新しい知識を得ることができる〉〈自分だけでなく、何人か集まって話し合うことで、ほんとうにたくさんの意見が出てくる〉とあるように、他者の意見は学生個人の予測外であり、個人の考えをはるかに凌いでいることを痛感している。多くの意見が出てくることは、問題解決のための方法や手だてが多く示されていることになり、解

決方法の決定手段が多くなる。また違った意見に触れ、自分以外の考えを共有することができるようになる。

#### 2) 【テーマに則した進行のための役割・能力】

カンファレンスでの司会者は、進行のための儀礼的な役割ではないことを〈司会は皆の意見をまとめるだけでなく、話がそれたときには修正することも大切だ〉から推測できる。また司会だけの責任ではなく、〈司会者だけでなく行き詰まったら、誰かが助けるといったように、積極的な参加がより深い話し合いとする〉〈自分の意見を述べるのではなく、それに対して他の人の意見を聞いて共感したり反論したりする〉にみられるようにカンファレンスに参加しているメンバーの役割がカンファレンスの進行に影響していることを理解していた。

#### 3) 【カンファレンスへの参加姿勢】

〈自分の意見を述べるのではなく、それに対して他の人の意見を聞いて共感したり反論したりする〉〈自分の意見を持つておくことは、自分にとっても仲間にとっても有意義な話し合いにするためにも重要だ〉よりカンファレンスに参加する姿勢として、参加型の姿勢が大切であると学んでいた。

#### 4) 【カンファレンスの意味の理解】

〈カンファレンスを行うには参加者全員が同じ目的を持って話し合うことが大切だということを知った〉〈集団維持のためという目的があるということなど、カンファレンスについて知らない面がたくさんあったことを知った〉より基礎看護学実習からカンファレンスに参加している学生だが、あえてカンファレンスとは何かが問われると十分理解していなかったため、今回のカンファレンス演習によって意味が理解できた。

#### 5) 【他者の新鮮な意見への驚き】

〈自分の意見だけではない考えも知ることができて良かった〉〈新しい意見と遭遇するたび考えさせられ、新鮮でした〉から。他者の意見を認めることだけでなく、新しい知見を驚きという感情で迎え入れている。

#### 6) 【共有すること】

〈意見を共有するためにという点でも重要な役割をはたしている〉〈カンファレンスをするので1人1人の意見を共有することが

できる>にあるように、他者の意見を自分のものとし、他者の意見を自分のものとし、共有することの可能性を学んでいる。

7) 【自分の考えを伝えること】

<テーマについて、よく勉強してわかっていないと話し合うことができない><自分の意見を持つておくことは、自分にとっても仲間にとっても有意義な話し合いにするためにも重要だ>という内容があった。

8) 【カンファレンスによる自己の新たな気づき】

<グループメンバーがひとつのことについて話し合うことによって、自分が考えていなかった点に気づくことができる><周りの違った考え方・捉え方をする人の意見を聞いて、自分が思いつかなかったことを発見できた>という内容があった。

9) 【カンファレンス前の発言のための準備】

<もっと知識を増やし自分の考えをしっかりと持ち、カンファレンスに参加しなければならない>という内容があった。

10) 【他者の意見に刺激を受けさらに深まる】

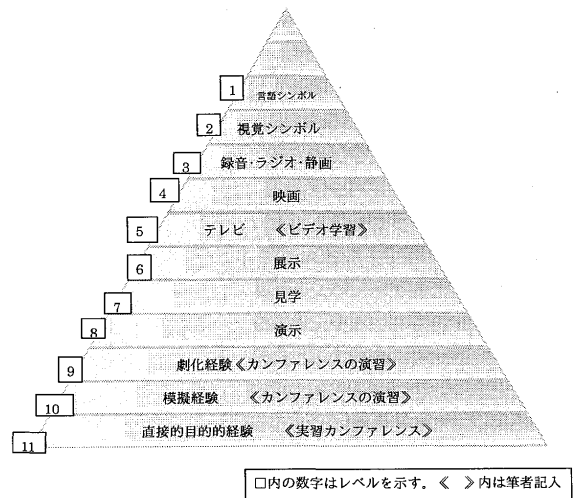
<もっと知識を増やし自分の考えをしっかりと持ち、カンファレンスに参加しなければならない>という内容があった。

4. 考 察

結果のカテゴリーごとに考察すると、【カンファレンスの効果を演習により体得】は講義で説明されたカンファレンスの意義を演習によって学生が確認していることを示す。講義直後の演習であったため、カンファレンスの目的や実習カンファレンスを通して学生の習得が期待される技能・意義・カンファレンスの機能（打ち合わせる・協議・会議・相談）<sup>5)</sup>を理解したうえで、演習で実際に体得できたことを示すと考える。【カンファレンスの意味の理解】はカンファレンスの意味を理解したところで留まっている。

これら二つのカテゴリーにより、学生がカンファレンスの意義とルールを知った上でカンファレンスの演習を実践したことを意味する。そして演習が実習でのカンファレンスのシミュレーションとなったと考えられる。Daleの経験の円錐（著者一部改変）では、劇化経験や模擬経験は経験の円錐のレベル9と10にあたり、具体的な学習経験である。講義（レベル1-3）やビデオ（レベル5）では具体性が乏しく、演習はより具体的であり、

図1 経験の円錐（教育学大事典, 312, 第一法規, 1978 一部著者改変）



シミュレーションとして成立したと考えられる<sup>6)</sup>。(図1)

【カンファレンス前の発言のための準備】はカンファレンス参加以前における学生の準備の重要性が効果的な運用のために必要であると学びとれたことを示す。【カンファレンスへの参加姿勢】はカンファレンスが会議や討議の形態をとった場合、発言する上での注意点や普段からの考察の必要性など、円滑な進行のためには準備が必要であることを学んだことを意味する。それはまた相手の意見を傾聴し、自分の意見を再考することが求められると気づいており、加えて相手が聞き入れてくれるような意見の発信と他者の意見を理解しようとする態度が参加姿勢に必要であることを示している。カンファレンスに参加するメンバーの心得として、①事前にテーマに関する文献を準備しておく。②テーマに関して必ず一言発言する。③わかりやすくそして内容を理解しやすいように要領よく発言する<sup>7)</sup>とある。傾聴のみならず自分も発言者として参加できるような姿勢で臨むことを実感できていた。

また【テーマに則した進行のための役割・能力】は、ファシリテーターが積極的に介入していた基礎看護学実習のカンファレンスと自ら運営する成人看護学のカンファレンスの特徴を進行上の役割から実感したことを示す。進行役はテーマに則した意見を収集し、まとめることを要求されている。ファシリテーターの介入が少ないときに進行の役割と能力の重要性に気づいていた

【共有すること】は、カンファレンスは自分の意見や他者の意見を共有する場であると学生は認

識していた。【自分の考えを伝えること】は演習ではテーマについて自分の考えを構築し他者へ伝えることが求められた。そのため、日常から考えを持つことが必要であり、他者の意見をふまえて自分の考えを再構築することが求められることを示している。

【新鮮な他者の意見への驚き】については改めて他者の意見の多様性に驚きを感じていた。【共有すること】カンファレンスは自分の意見や他者の意見を共有する場であると学生は認識していた。【自分の考えを伝えること】演習ではテーマについて自分の考えを構築し他者へ伝えることが求められた。そのため、日常から考えを持つことが必要であり、他者の意見をふまえて自分の考えを再構築することが求められることを示している。

【新鮮な他者の意見への驚き】改めて他者の意見の多様性に驚きを感じていた。多様な意見展開ができるため、集団討議の有用性に気づいていた。では、これらのカテゴリからカンファレンス演習の効果についての考察を行っていく。

先に述べたとおり、実習カンファレンスによって5つのカンファレンスの技能「自己の考えを口頭で述べる能力」「クライアントに関する情報を他者と共有すること」「実践に関するディスカッションにおいて他者をリードすること」「グループの中で自己の考えを述べること」「学習効果を披露すること」<sup>8)</sup>の習得が期待される。しかしながら実習カンファレンスは実習目標を達成するためにある。学生が暗黙的に期待されているとしても、自然発生的に明文化されていないそれらの技能を習得するのは難しいであろう。

加えて知識としてカンファレンスの目的や（習得が期待される）技能を伝えることはできるが、前述のDaleの円錐にあるように教材としての具体性には乏しい。加えて図1にあるように講義（レベル1-3）から実習（レベル11）への飛躍は、学生に無理を強いているといえる<sup>9)</sup>。【カンファレンスの効果を演習により体得】とあるように体得や実感する学習効果は演習によるものであると考えられる。実習で実践する前に、知識を生かして練習（演習）することが体得・実感と表現される学びにつながったと考えられる。

実習でのカンファレンスは、実習指導者や時には師長など病院関係者も参加すること、評価の対象となっていることから考えても学生にとって緊張感を伴っていることは容易に予想できる。それ

に比してカンファレンス演習は学内で行われ、病院関係者もいない。また教員はグループごとにいるわけではなく、流動的に巡回しファシリテーターとして学生のカンファレンスが滞ったときのみ牽引する。こうしたことより学生にとってはさほど緊張感もないため、カンファレンスについて講義で学んだことが実践できているか、自分が何を話そうか客観視できるのではないかと考えられる。

またカンファレンス演習では、テーマをあらかじめ設定してはいるが、テーマを選択し演習を実行していくのは学生自身である。教員はファシリテーターとして関わり、カンファレンスの運営や進行は学生に任せている。これにより学生は依存性よりかは自律性、受動性よりは能動性、少しの責任よりは多くの責任、利己性よりは利他性<sup>10)</sup>を感じるができるのではないかと考える。それが、カテゴリ【他者の新鮮な意見への驚き】【他者の意見に刺激を受けさらに深まる】に反映されているのではないかと考える。教わることから学ぶことへ、ペタゴジーからアンドラゴジーへの転換点であり、アンドラゴジーのきっかけとしても有効であろう<sup>11)</sup>。

カンファレンスについて思い浮かべたとき、様々なカンファレンスが思い浮かべられるのは、学生時代にきちんとしたカンファレンスの講義あるいはトレーニングを受けていないからだと思われる<sup>12)</sup>。カンファレンスの機能別の目的には課題達成機能と集団維持機能があり<sup>13)</sup>、ルーチンの実習カンファレンスでは学生の抱えている問題をテーマとして取り上げ問題解決の方向性を探る課題達成機能とその問題をグループ全員で考える集団維持機能の両方が行われている。カンファレンス演習では、学生が意義を理解し成人看護学実習におけるカンファレンスを効果的にするための準備を目的としている。これについては、カンファレンス演習は実習カンファレンスのシミュレーションとしての意味を持つであろうことを既に述べた。演習での課題は達成されている。学生たちに実習カンファレンスの準備をしてもらうこと以外にも、利他性に由来した他者の発言へついでに驚きや、カンファレンスに臨む姿勢や準備など、カンファレンスを効果的にするためのカテゴリが抽出された。カンファレンスを通して、集団の中にいる自分の自己の能力を発揮するために何をすべきかの動機づけとなったのであろう。これらより、カンファレンス演習であっても、課題達成機能と集

団維持機能両方が存在することがカテゴリーにより類推できる。

実習カンファレンスでの習得が期待される技能が5つあるが、実習前のオリエンテーションや講義でのみで十分な学習効果があるのか疑問であった。今回カンファレンス演習での学びに取り組んでいったなかで、実習カンファレンスのシミュレーションとして効果が期待できること、カンファレンスに参加する姿勢と態度を知ることができること、参加メンバーの意見が新たな気づきと自己の成長のきっかけとなりうるということがカンファレンス演習の学びではないかと考えることができた。

## 5. 結 論

カンファレンス演習の学びとして10の有効な演習の学びが確認され、以下のことが示唆された。

- ①演習はカンファレンス技能習得のきっかけとなる。
- ②実習カンファレンスのシミュレーションとして効果が期待できる。
- ③カンファレンスに参加する姿勢と態度を知ることができる。
- ④参加メンバーの意見が新たな気づきと自己の成長のきっかけとなりうる。

## <引用文献>

- 1) 廣田登志子：看護学実習カンファレンスにおける教授活動に関する研究，看護教育学研究，11(2)，pp.12-13，2002.
- 2) 中山登志子，定廣和香子，舟島なをみ：看護学実習カンファレンスにおける実習カンファレンスにおける教授活動，看護教育学研究，12(1)，pp.1-14，2003.
- 3) Kathleen R. Stevens, Virginia R. Cassidy : Evidence-based Teaching Current Research in Nursing Education, Jones and Bartlett PublishersPublishers, 1999, 杉森みど里，エビデンスにもとづく看護学教育，pp.62-69，医学書院，2003.
- 4) Marilyn H. Oermann, Kathleen B. Gaberson : Evaluation and Testing in Nursing Education, Springer Publishing Company, 1998, 舟島なをみ，看護学教育における講義・演習・実習の評価，p225，医学書院，2001.
- 5) 延岡久子：臨床実習指導のプロモーション（2），p154，ユリシス・出版部，2002.
- 6) 教育学大事典，p312，第一法規出版，1978.

- 7) 前掲書5)，p159.
- 8) 前掲書4)，p225.
- 9) 杉森みど里：看護教育学（3），pp199-201，医学書院，1999.
- 10) Malcom S. Knowles : The Modern Practice of Adult Education, Cambridge Adult Education, 1980, 堀薫夫，成人教育の現代的実践ーベダゴジーからアンドラゴジーへー，pp16-21，鳳書房，2002.
- 11) 前掲書10)，p39.
- 12) 前掲書5)，p154.
- 13) 前掲書5)，p155.

## <参考文献>

Kiaus krippendorf : Content Anaiysis An Introduction to Its Methodology, Bevery Hills, 1980, 三上俊治ら訳，メッセージ分析の技法「内容分析」への招待，勁草書房，1989.